

事例発表

「介護現場における働きやすい職場環境づくり」

社会福祉法人みちのく大寿会
特別養護老人ホーム久慈平荘
生活相談員兼介護支援専門員 林郷 裕吉





社会福祉法人みちのく大寿会 法人基本理念

～私たちは

故郷（ふるさと）の笑顔を守る
法人になります～



みちのく大寿会の福祉サービス

- ・ 特別養護老人ホーム久慈平荘
- ・ 久慈平荘ショートステイ事業所
- ・ 久慈平荘デイサービスセンター
- ・ 小規模多機能ホームくじひら
- ・ 久慈平荘ホームヘルプサービス事業所
- ・ 大寿会居宅介護支援事業所
- ・ 洋野町高齢者生活支援センター「やすらぎの家」



みちのく大寿会の職場環境づくり

～それぞれのライフステージを支援～

・子育て支援手当

子育て中の職員に対し、保育料の1/2（非常勤職員1/3）を補助

子育て中の職員の経済的負担軽減と就労継続を支援

・住宅取得応援助成金

新築住宅の建築や中古住宅購入の職員に対し助成

地元への定住・定着を推進

他にもキャリアアップ支援の取り組みなどが評価され

いわて働き方改革AWARD2018 最優秀賞受賞



みちのく大寿会の職場環境づくり

- ・令和5年には、前述の子育て支援制度に加え、職員アンケート実施での環境改善、ICT機器活用によるケア記録業務・健康管理業務の効率化の取り組みを評価していただき、

介護職員の働きやすい職場環境づくり

厚生労働大臣表彰

奨励賞受賞

介護事業所のICT機器導入の状況

介護ロボット、ICT機器等の導入・利用状況(日常的に利用しているもの) 問17①

◆ 全国では、「利用者情報(ケア記録・ケアプラン等)の入力・保存・転記の機能」を日常的に利用している比率が66.2%で最も多い

回答事業所数	パソコンによって利用する介護ソフト							介護業務用のアプリが入ったタブレット端末・スマートフォン					その他のICT機器等									
	利用者情報(ケア記録・ケアプラン等)の入力・保存・転記の機能	職員間の報告・連絡・相談のためのグループウェアの機能	シフト管理・配車管理等の機能	入力した音声を変換する機能(テキスト)	各種の介護ロボットとの間のデータ収集・蓄積・利用の機能	その他の機能	利用者情報(ケア記録・ケアプラン等)の入力の機能	入力した音声を変換する機能(テキスト)	他の職員との間で業務連絡できる機能	ベッドセンサー(マット型・内蔵型)	カメラ型センサー	壁以外のセンサー(天井・壁・机上・床・ドア・便器等)に設置するカメラ型以外のもの	施設内の無線ナイスコール機器					介護ロボット				
													施設内のWiFi設備	移乗を支援する介護ロボット(マットスリットなど)	利用者の移動を支援する介護ロボット	排泄を支援する介護ロボット	利用者との間で双方向コミュニケーションをとる介護ロボット	利用者宅に設置し、利用者の転倒等の異常を感知した際に自動的に通報する介護ロボット	入浴を支援する介護ロボット			
全国	8,990	66.2	32.5	40.2	7.7	4.0	18.9	43.3	10.5	31.2	19.7	5.0	11.4	25.3	4.5	50.6	1.4	1.2	0.2	0.3	0.4	2.2
訪問系	2,461	65.7	39.5	45.6	9.7	3.0	17.8	46.3	13.0	41.4	6.5	1.9	3.1	12.6	2.8	42.4	0.5	0.2	0.0	0.0	0.1	0.5
施設系(入所型)	1,192	80.7	39.4	49.7	5.9	9.6	27.4	50.6	8.1	29.4	67.4	12.4	26.5	55.8	9.5	65.4	6.8	5.3	1.0	1.1	1.6	7.6
施設系(通所型)	2,603	63.1	27.5	33.7	5.6	2.8	19.6	39.1	7.5	24.5	10.8	4.6	8.5	26.8	4.5	54.2	0.5	0.7	0.2	0.3	0.0	1.8
居住系	1,005	58.7	25.0	39.6	7.3	5.0	20.2	41.6	10.7	28.0	38.5	8.7	30.8	37.4	5.3	57.1	1.1	1.3	0.0	0.5	1.2	2.5
居宅介護支援	722	77.8	30.9	32.4	12.6	2.1	14.8	43.8	17.7	32.8	0.6	0.3	0.3	1.4	1.7	42.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
岩手県	115	72.2	33.0	41.7	6.1	5.2	13.9	36.5	7.0	24.3	25.2	6.1	10.4	27.8	0.9	45.2	0.0	2.6	0.0	1.7	0.9	1.7

用している」と回答した事業所の割合

介護労働安定センター 令和5年度介護労働実態調査結果より引用

特養でのICT関連機器導入以前

前から介護業務支援ソフト（ほのぼのNEXT）は導入していたが…

○困りごと

- ①パソコンの台数が限られ**入力の順番待ち**（休憩時間にずれ込む）
- ②記録の**二度手間**（手書きした記録をパソコンに入力）
- ③手書きメモの紛失・間違いで**記録漏れ**
- ④入力のタイミングが遅れる⇒**利用者のケアに影響**
⇒効率が悪い・職員の休憩への影響

ICT関連機器導入へ

岩手県の令和2年度介護ロボット等導入支援事業を活用

○導入機器・設備

- ・ 施設内全館無線LAN設備
- ・ タブレットPC及び介護ソフト「Care Pallet（NDソフトウェア）」
- ・ Care Palletとの連携可能なバイタル測定機器

導入機器・設備

館内無線LAN設備



タブレットPC&ソフト



バイタル測定機器



体温計



血圧計



パルスオキシメーター

導入の効果

介護記録の二度手間の解消

食事や水分摂取、活動参加の記録など タブレットで直接入力



導入の効果

バイタル測定・記録の省力化

ソフトとBluetooth連携したバイタル測定機器の使用



NISSEI

Bluetooth通信対応機器



体温計



血圧計



パルスオキシメーター

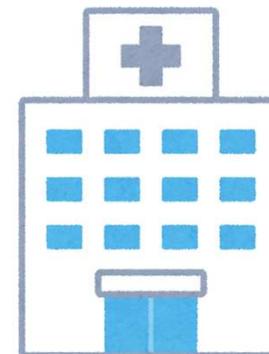
計測データ転送



導入の効果

タブレットPCでケア記録が参照できることで

- ・ 通院等の際、重たいファイル等を持ち運ぶことが減る
- ・ 通院時の付き添いをしながらケース記録の確認などプランのモニタリング作業等につなげられる



その他

館内無線LAN環境ができたことにより

- ・ オンライン面会の利便性向上
（居室で、ホールで、電波が届けば屋外でも）
- ・ ホールテレビのインターネット接続
（YouTube視聴・オンラインレク活用・インターネット配信）
- ・ オンライン服薬指導
- ・ コロナ発生時、レッドゾーンからメモを出し入れすることなく
タブレットでケア記録入力

その他

令和6年度の介護報酬改定で新設された 『生産性向上推進体制加算（Ⅱ）』を算定

算定要件

- ・ 利用者の安全や介護サービスの質の確保、職員の負担軽減に向けた委員会の開催や安全対策を実施する
- ・ 1つ以上のテクノロジー機器（見守り機器・インカム・介護記録ソフト・介護記録の作成を効率的に行うことができるICT機器などが該当）を導入
- ・ 生産性向上ガイドラインにもとづいた業務改善をする
- ・ 事業年度ごとに実績データを厚生労働省に提出する

生産性向上推進体制加算（Ⅱ） 算定にあたり

- ・ 業務改善チームを今年度設置。ICT導入年度から設けているICT活用チームと両輪で取り組みを進める
- ・ 前述のタブレットPC及び介護記録ソフトの活用
- ・ 生産性向上ガイドラインにもとづいた業務改善



生産性向上推進体制加算（Ⅱ） 算定にあたり

・実績データの提出に向け準備

種類	対象	データ内容
利用者の満足度評価	利用者(5名程度)	・WHO-5調査の実施・生活・認知機能尺度の確認
総業務時間や超過勤務時間の調査	介護機器の導入を行ったフロア等に勤務する介護職員	10月もしくは算定月における、介護職員の一月あたりの総業務時間と超過勤務時間
年次有給休暇の取得状況の調査	介護機器の導入を行ったフロア等に勤務する介護職員	10月を起点とした1年間の年次有給休暇の取得日数

導入によって効果は出ているが一方で運用面で課題も…

課題

①まだ二度手間で行っている記録もある

- ・排泄記録
- ・入浴記録

⇒衛生や機器故障のリスク、入力の効率等考える必要がある

②全員がタブレットで記録できているわけではない

- ・高齢等の理由でタブレット入力等がなじめない
- ・外国人材の職員の記録（特にも文面で行うケース記録）

※音声認識入力機能・多言語アプリは入っているが

うまく活用できていない

課題

③入力業務の効率化だけにとどまり、データ活用に乏しい
⇒利用者様へのケア向上にあまりつながっていない

④PC・タブレットの介護ソフトの機能を活用しきれていない



これからの取り組み

法人内のICT活用チーム・業務改善チームを中心として

①高年齢職員・外国人材対象に

タブレットの練習会を計画

⇒ 苦手意識の克服

②高年齢職員向けに介護場面ごとの

タブレット入力手順書作成

⇒ 業務改善

③ケア記録の見直し

その他の取り組み

移乗支援の介護ロボット導入に向け

- ①「北いわて介護福祉産学勉強会」から派生した
「ノーリフトケア導入情報交換会」へ参加

⇒北九州のノーリフトケア先進施設から講師を招き導入研修

県北の各事業所と情報交換をしながら

ノーリフトケア導入へ向け取り組みを開始

相談員として感じていること

- ①導入検討段階から現場レベルとの綿密な打ち合わせが必要
- ②導入後があくまでも「スタート」で機器使用の習熟度、
使用状況のモニタリングなどマネジメントの継続が必要
- ③業者との関係性の構築（機器選定・デモ機での運用試行）
- ④機器・システム導入の運用だけで生産性向上、利用者様へのサービス向上につながるわけでない
⇒業務の見直しを含めた全体のマネジメントの体制をいかに
推進・継続していくかが重要だと感じている

最後に

導入費用・導入後の運用など課題は多いが
ICT・介護ロボットを効果的に運用し
働きやすい職場環境にすることで

職員・利用者様・学生に選ばれる法人にしていきたい

ご清聴ありがとうございました